

# 防災・減災の輪

かがわ自主ぼう連絡協議会  
会報 第47号(2011 1 31)  
事務局川西地区自主防災会

## コミュニティ防災マップ作成のすすめ

香川大学危機管理研究センター・工学部

長谷川修一

平成22年の香川県における防災分野のトップニュースは、丸亀市川西地区自主防災会が「第14回防災まちづくり大賞」で最高賞の総務大臣賞と防災活動に関して特に顕著な功績のあった「防災功労者内閣総理大臣表彰」のダブル受賞したことでないでしょうか。自主防災会を立ち上げ、10年かけて名実とも日本一の自主防災会を作り上げた岩崎正朔会長のリーダーシップと自主防災会の皆様の献身的な活動に心から敬意を表します。本当におめでとうございました。

今回の受賞は、防災教育や訓練・研修などの「人づくり」、防災資機材の整備などの「物づくり」、要援護者への取組や地域の企業・団体との連携などの「絆づくり」について、PDC Aサイクルを導入して、年間計画を立て（P）、活動し（D）、振り返りをする（C）ことにより、次の活動の改善（A）する創意工夫が日本一の決め手になったわけです。また、共助の輪を地元だけでなく「防災伝道師」として他の地域や団体に派遣し、習得したノウハウの伝授に努めていることも高く評価されました。

岩崎会長率いる川西地区自主防災会の活動で素晴らしいのは、地域の特性にあった課題、また地域で必要な課題を見つけ、自分たちで考え、いろいろな防災活動を創造したことだと思います。私は、災害から身を護るには、まず自分で考えることが大事だと感じているからです。これは、災害状況は、場所によって、また時間によって異なるので、単純にこうすれば安全という万能薬がないからです。

例えば、避難勧告が発令されたら、該当する地域の人全員避難すべきでしょうか？ 全員避難しないといけない場合も、一部の地域の人だけ避難すべきだ場合があるというのが答えです。このため、どのような災害のときにどこにいたら、避難しなければならないのか？ また、どこに避難すれば安全なのか、どのルートが安全なのか？ 不幸にも逃げ遅れたら、どうするのか？ 災害時の対応を日頃から自分で、家族で、地域で、職場で考えておく必要があります。

どのような建物にしようとして避難しなければならないのは、火山噴火警報が発令された地域です。火砕流に襲われる可能性がある区域では、耐震性の高いビルにいても危険です。もし不幸にも逃げ遅れたらどこに避難しますか？ ビルの屋上で救助を待つのは自殺行為です。火砕流は熱雲のように盛り上がり、焼き尽くすので、高所でなく、地下室もしくは壁に囲まれたトイレに逃げ込むしかありません。しかし、必ず助かる保証はありません。

2000年の有珠山の噴火の際には、気象庁による噴火の予測が的中し、住民だけでなく観光客も全員域外に避難し、人的被害をゼロにすることができました。これは、行政による火山ハザードマップが作成され、北海道大学の火山研究者による有珠山の火山活動に関する防災学習も行い、住民も含めて火山噴火への対応ができていたからです。

大津波警報が発令された場合には、津波による浸水が予測された地域では、安全な高所へ避難して、津波の危険性がなくなるまで待機する必要があります。もし、木造住宅に住んでいれば、2m以上の津波で全壊する可能性があるため、真っ暗闇でも避難しなければなりません。また、沿岸部で近くに安全な高台がない場合には、遠くまで避難するより津波に安全と思われ

る近くのビルの高い階に避難したほうがいいのです。つまり、どこに避難したらいいか、また地震時に、停電時にどのルートが安全か事前に把握しておく必要があるのです。そして、安全に家から脱出できるには、何よりも建物の耐震性と室内の地震対策です。

大雨によってお住まいの地区に避難勧告がでたらどうしますか？

これこそケース・バイ・ケースです。浸水についても場所（地形）によります。自宅付近が浸水していなくても、避難所への経路が浸水している場合もあります。こうなれば、川岸でなければ自宅の2階のほうが安全かもしれません。

しかし、住宅が崖下であれば崖崩れの危険が、また谷の出口であれば土石流の危険がありますので、自宅にとどまるのは危険です。しかし、すでに浸水や土石流が発生し始めている状況なら、避難する経路のほうがはるかに危険かもしれません。となると、自宅の2階、しかも山と反対側の部屋にいるのが次善の策になります。避難所がこのようなところになるなら、たとえ頑丈な鉄筋コンクリートの建物でも、1階のロビーで全員待機しているのが危険な避難になります。

避難は危険になってから行動するものではなく、危険な状況になる前に完了しておくものなのです。実は、静岡大学の牛山素行先生の調査よれば、豪雨時には避難や見回りなど積極的な行動によって命を落とす場合が意外に多いのです。牛山先生によれば、兵庫県佐用町で平成21年8月に避難中に犠牲にあった方は、決して防災意識も低くはなかったのではなく、自主的に避難して被災されたようです。ただ残念なのは、川の対岸の小学校に濁流の中避難したことです。事前に豪雨時の危険箇所を調査し、避難方法を検討していたらと悔やまれます。

私は、災害特性が地域によって異なるのだから、地域単位で防災マップの作成とマップを作成し、作成したマップを使って災害時の状況をイメージした災害図上訓練を行い、地域の災害特性と減災に関する情報を共有して、防災活動を進めるのがいいのではと考えています。いわは、敵を知り、己を知ることが防災活動のスタートです。

小研究室は、平成17年度から地域の防災マップの作成支援を開始し、地域のかたがたと一緒に平成18年度は丸亀市川西地区、平成19年度は高松市林地区と大田南地区、平成20年度は高松市川岡地区、平成21年度は高松市二番丁地区と鬼無地区の防災マップを作成してきました。

マップ作成の過程で、香川マルチメディアビジネスフォーラムの企業人、香川県防災士会やブロック診断士の専門家による支援の輪も広がりました。そして、平成23年1月には岩崎正朔氏を理事長とするNPO法人「災害に強いまちづくり研究会」が誕生しました。この研究会は、**住民の持つ知恵(地域情報)と香川大学などの専門技術並びに企業人が持つ人的ネットワーク及びITスキルの融合により、それぞれの地域にあった防災マップ作りを市民、行政、企業が力を合わせて行い、様々な内容の事業、提言、研究、発表を行いうことを目的としています。**

香川大学は、防災だけでなく、多様化する危機に関する教育・研究による地域貢献を目指して平成20年4月に危機管理研究センター（白木渡センター長）を立ち上げました。平成21年度からNPO法人日本防災士機構の「防災士」の受験資格を取得できる「地域防災リーダー養成講座」を開講し、社会人にも公開し、初年度30名の防災士を送り出すことができました。また、平成22年度は、通常の授業とは別に月1回の公開講座も開講し、地域防災リーダーの養成を充実したところです。平成23年度も募集しますので、お問い合わせください。

危機管理研究センターでは、来る2月17日（水）の午後「災害と地域防災」をテーマに危機管理シンポジウムをサンポートホールで開催いたします。特別講演は、香川誇るカリスマ防災リーダーの岩崎正朔会長です。是非多数のご来場お願い申し上げます。

## 地域の情報

### 1、丸亀市川西地区の紹介

#### 1) 基本データ

人 口	6,904 人	要援護者	130 人
世帯数	2,573 世帯	在留外国人	70 人
面 積	4.5k m <sup>2</sup>		
高齢化率 65 才以上	18.9%	高齢化率 75 才以上	8.2%

### 2、川西自主ぼうが取り組んでいる「主要な取組み」

#### 1) 小学校を基軸とした防災教育

小、中、高校を一体化した防災教育を展開しておりますが、特に重点的に取り組んでいる地元小学校との平成 23 年の研修計画を別紙により紹介します（別紙）。



2) 地域内をくまなく調査して、面的視点から「防災機材」の配備を行っています。平成 22 年度末「8カ所」の防災資機材の設置と「6カ所」の土のうステーションを配備した。後 2 年ほどでこの整備計画は完了したいと思います。



3) 防災のみならず、まちづくり全般にわたって非常に重要な要素となりうるのは、企業、福祉団体の皆さんとの連携・絆づくりです。5年10年というスパンでの平素の何げない事柄を大切にして、階段を一步一步登るといふ心構えでお付き合いすることが、強い絆づくりに結ばれていくものだと思ひ、ここ数年次のような取組みを展開しています。



- ア) コミュニティ組織並びに小学校が主催する行事に、招待させていただく
  - ・ふれあい祭り ・いもだき大会 ・夏祭り ・運動会 ・作品発表会
- イ) コミュニティだより、防災だより『共助』、学校だより等の会報の配布
- ウ) 会長が撮影した写真による特製カレンダー持参による挨拶回り



- 4) 防災伝道師として多くの仲間作りのために、県内外への活動を推進する。
  - ア) 小学校、地域一体となった防災訓練のお手伝い
  - イ) 自主ぼう組織の立ち上げについての、相談・支援等活動
  - ウ) 防災、福祉、環境等一体となったまちづくりへの支援活動



・・・何なりと気楽にご相談ください。(090-3186-5043 岩崎)

1. 避難所設営を主とした防災研修

2月24日(木)

予定カリキュラム

- ①避難所設営訓練 ②炊き出し体験訓練
- ③起震車体験訓練 ④防災クイズによる啓発訓練
- ⑤今、なぜ防災活動なのか (講座)



2. トリアージ体験訓練

5月中旬～下旬



坂出回生病院救急センターの指導により、大災害発生時の負傷者の判定を行い救急医療の支援能力を養成する。

3. 各種防災技術体験訓練

6月上旬

予定カリキュラム

- ①心臓マッサージ等心肺蘇生訓練 ②バケツリレーによる給水搬送訓練
- ③担架組立搬送訓練 ④土のう作成・積み方訓練
- ⑤ロープ投げによる被災者救出訓練
- ⑥炊き出し体験訓練



4. 安心・安全マップ作りの研修

7月下旬～9月上旬



通学路の安心・安全確保を図るため、地域の人達と過去にあった災害伝承と危険箇所の点検を行いマップに展開して、地域内の安全度の向上を図る。



5. 香川県総合防災訓練に地域自主ぼうと合同参加

9月上旬

「香川県総合防災訓練」に参加して、地元の小学校児童と一緒に各種訓練を実施する。

6. 「被災者救出」並びに「情報伝達訓練」の研修

10月下旬



約10ヶ月にわたって行ってきた防災研修の最終仕上げ、家屋倒壊・家具倒壊によって、被災された人々の救出とその後の救急車要請等の情報伝達訓練を実施する。